

出席者資料

1. 石井 恒之介 様 提出資料 P1
2. 市原 教孝 様 提出資料 P6
3. 金城 隆一 様 提出資料 P29
4. 鈴木 友一郎 様 提出資料 P37
5. 梁 裕之 様 提出資料 P43

1. 石井 恒之介 様 提出資料

「名護市学習支援教室ぴゅあ」

活動報告

「名護市学習支援教室ぴゅあ」
教室長 石井 恒之介

報告内容

1

設立経緯

3

活動内容

2

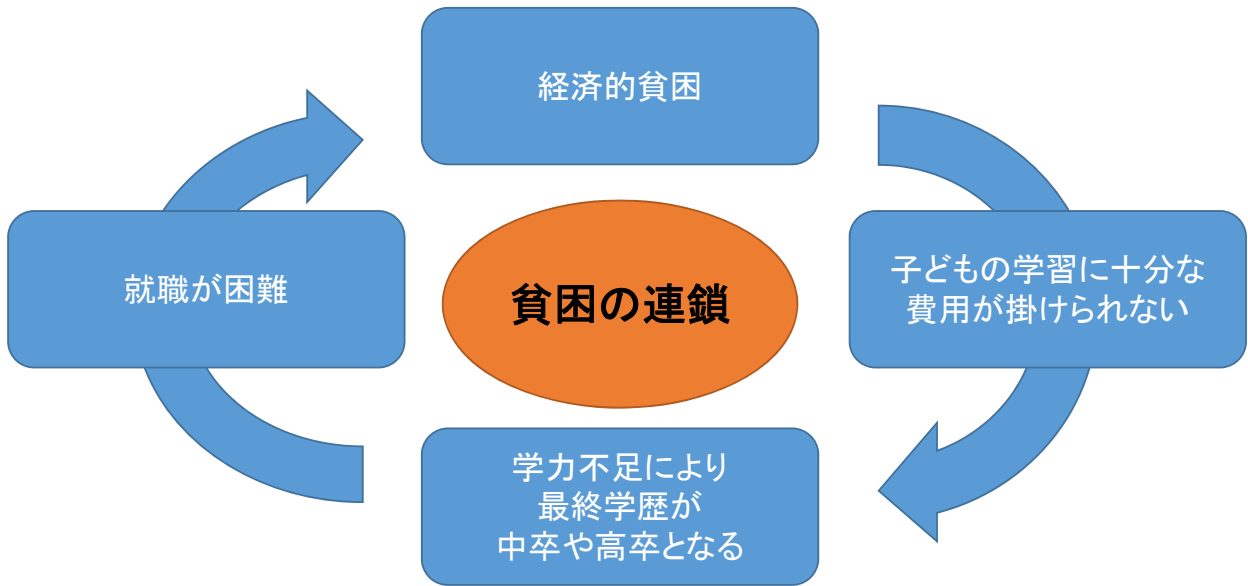
「ぴゅあ」概要

4

活動の成果

1 設立経緯

貧困の連鎖の防止



貧困の連鎖を断ち切るべく、平成25年度
名桜大学と名護市が連携し、
無料塾:「名護市学習支援教室ぴゅあ」がスタート

2

～ 「ぴゅあ」概要 ～

対象者	生活困窮世帯・・・生活保護世帯・準要保護世帯 上記以外の生活困窮世帯の中学生 ※ 平成25年度開始当初は生活保護世帯のみを対象とし、 年度途中より準要保護世帯の子どもを対象に加えた
支援者	名桜大学に在籍し、教員養成課程を受講する大学生
支援場所	名桜大学(大学構内にて「ぴゅあ」専用の教室を準備)
交通手段	「ぴゅあ」専用無料送迎バスを運行させている

参加方法

- ・名護市内8つの中学校を3つのコースに区分
- ・各コース週に1回参加出来るよう、月・水・金 週3回開催(2時間程度)
- ・無料の送迎バスに乗り参加生徒は名桜大学へ
- ・支援終了後は、送迎バスに乗り自宅近くのバス停にて下車、帰宅。

支援方法

- ・中学生の宿題や学校での復習を、大学生がサポートする(個別指導スタイル)
- ・大学生は1人に対し、中学生1~5名程度を支援する
(子どもの状況に応じて臨機応変に対応)
- ・教科は中学生の要望に応じて指導。教材は「ぴゅあ」に準備されているテキストや教科書を使用する

活動内容

学習支援の様子



・学習環境の提供

→自宅での学習習慣が無い生徒、学習環境に乏しい生徒へ学習できる時間・環境を提供できた。

・家や学校とは違った自分を出せる居場所としての役割

→家庭や学校とは違った面を出せる場所が存在することで、生徒の社会性を育む場所としての機能を果たし、生徒にとって居場所としての役割を担っている。
(不登校だが、「ぴゅあ」には来ることが出来るようになった生徒も)

・大学生との触れ合いから中学生が様々な刺激を受けることが出来る

→中学生が年齢の近い大学生と触れ合うことで、高校進学の意味やその先の進路について具体的に考えるきっかけとなっている。身近な大学生から将来のヒントを得ることで自らの将来にもたくさんの選択肢があることに気づくことができる。

・高校入学に向けての支援

→「ぴゅあ」への参加生徒で希望進路の実現を多くの生徒が果たすことが出来た。設立目的の第一歩の達成が実現。